



## 「神学校理事長として 立てられて」

風間 義信（仙台教会牧師）

2011年の定期大会の会議終了後、当時の神学校理事長であった小野静雄教師から時間を取ってほしいと呼び止められ、突然、理事長への就任を考慮するよう求められました。当時の神学校には(今日もそうですが)多くの課題、難題があり、大会審議においても毎年、多くの時間を割いておりました。そのような状況の中、これまで一度も理事を務めたことのない者が教派から経営の責任を担う理事長にいきなり就くことなどあり得ないと思っていました。いくつもお断りの理由を考えましたが、そのような姿勢を主は砕かれ、神学校のために微力ながらも仕えることが許されたらとの思いでお引き受けすることになりました。依頼されたとはいえ、小野前理事長、当時の市川校長にはご心配をおかけする連続ことだったのでないかと思えます。

理事長就任の際に、私はこの校報に、「キリスト教会において、何らかの『長』として立てられるということは、誰よりもその組織、機関のために祈る者とされたのであり、またそれが期待されているはずです。そのことを深く自覚し

つ、委ねられたこの働きを通して主と教会に仕えていきたいと願っています。」と記しました。ここ10年余りの間、どれほどのことができたのか、まことに貧しい働きでしたが、理事の方々はじめ、全国の諸教会からの支えの中、神学校が守られてきたことを主に感謝します。

改めて申し上げるまでもなく、神戸改革派神学校は、日本キリスト改革派教会で奉仕する教職者を養成するところです。教師不足が慢性的に叫ばれている中、伝道者を養成し、働き場へと遣わしていくために、吉田校長はじめ、教授・講師陣、職員が懸命に奉仕されています。その働きをしっかりと支え、学生たちの学びが整えられるよう、理事会は大会から経営の責任を委ねられてきました。これからさらなる大規模な改修、補修工事の必要もなされようとしておりますが、それもまた、働き人を教会に送り出すためです。

今後とも、神学生のために、また新たなる神学生が生み出されるよう祈ってくださると共に、神学校のために奉仕される方々のために、一層の御支援をお願いいたします。

# 卒業生挨拶



4年制卒業

伊藤 築志

(いとう つくし)

東部中会  
田無教会 定住伝道者

神学校での4年間は、主からの豊かな恵みを受け続けた4年間でした。それは献身の思いが与えられたその時には考えもしなかったほど豊かでした。神学校で与えられた学びは、単に講義を通して得るものだけではありませんでした。日々の祈り、教えてくださる先生方との雑談、共に学ぶ仲間たちとの生活などを通して、主とともにある生活の喜びを学びました。また通年派遣・夏期伝道を通しての教会の皆様や先生方との交わりによっても、主が教会におられ、礼拝者に力を与えておられることを学びました。様々な学びの中で、私は、礼拝者が心から主を礼拝するために、礼拝式においてどのような工夫ができるのかに興味を持ちました。そんな折、2020年1月にカルヴィン神学校の礼拝シンポジウムへの参加が

ゆるされました。私は英語がからっきしですが、言語を越えて・文化を越えてキリストが礼拝されていることを体験し、礼拝に関する様々な試みをも知ることができました。日本に戻ると新型コロナに振り回されるかのような日々が待っていましたが、生活様式が変わる中でも、主なる神様は、そして私たちの礼拝の本質というものは何も変わらないのだということ、それまでの学びを通して確信することができました。主の恵みによって、時代の状況に振り回されずに礼拝をささげ続けるための信仰的な土台が与えられた思いです。

学ぶにつれて、私の人生は主にお仕えすることで最も輝くのだということが理解できるようになりました。それまで抱いていた自己実現への興味が薄れ、御国の実現のほうに興味に移っていったのです。そして「主のためだけに生きてよい」ということが、私にとっては本当に心地よい生き方だということに気づかされました。神学生時代に頂いた恵みが、これからの伝道者としての歩みの中で本当に大きな宝になってゆくのだらうと思います。4年間の学びを祈り支えてくださった皆様に、心からの感謝を申し上げます。



4年制卒業

寺川 和宏

(てらかわ かずひろ)

西部中会  
奈良伝道所 定住伝道者

私にとって、神学校の4年間は振り返るとき「感謝」しかありません。わたしたちの学年は神学校の期間が3年3か月から4年となって2期目でした。本

当に、小さな私が、この4年間という神学校生活を全うすることが出来たのは、校長先生をはじめとして、先生方、事務所、図書館、食堂の皆様、先輩方、同級生、そして、後輩にいたるまで、多くの皆さんが支えてくださったからに他なりません。

また、卒業した今でも、それは変わることなく、神学校の先生方を始め、神学校時代に交わりがあった皆さんには現場で分からないことがあれば相談をしています。そして、多くのアドバイスを頂き、助けられています。いつも助けてくださり、ありがとうございます。この関係はこれからも変わることは無い

と思っています。本当にかげがえのない出会いを与えてくださった主に感謝いたします。確かに、学期末試験や、説教演習では大いに悩まされました。しかし、今、教会に遣わされて改めて、その一つひとつが活かされていることを思います。

また、わたし個人としては、神学校の4年間は、母教会である神港教会の牧師である岩崎謙先生と共に歩んだ4年間でありました。入学前に神学校に行くかどうかで相談したことから始まり、入学試験の面接、実践神学・説教の授業、説教演習、そして、卒業論文の指導、神学校時代の相談、昼休みや放課後に一緒に卓球やテニスをしたことなど。岩崎先生との神学校の思い出を数えるとキリがありません。

今、遣わされている奈良伝道所に行くことが決まり、神港教会に報告に行った際も、岩崎先生は喜んでくださり、共に主に感謝の祈りを捧げたことは、今でも忘れることが出来ません。本当にありがとうございました。

最後に、神学校時代交わりのあった、みなさま、本当にありがとうございました。そして、これからも宜しく願いいたします。



4年制卒業  
堂所 大嗣  
(どうしょ だいじ)

中部中会  
恵那伝道所 定住伝道者

恵那教会での働きを始めてから2ヶ月、ここまで何もかもが手探り状態の中で毎週のみ言葉と必死に格闘しながら過ごしています。しかし教会の皆様が暖かく迎えてくださり、忙しいけれども楽しく充実した日々を過ごしています。そしてそんな風に新しい生活を送りながら、ふと、神学校で過ごした4年間を懐かしく思い出すことがあります。

事務室の加門勝老長老やホビー泉さんは、いつも優しい笑顔で私たち神学生の我がままな要望に答えてくださり、私たちの学びと生活を支えてくださいました。

神学校の施設や備品に故障や不具合があると、いつの間にか江戸浩三長老が修理してくださいました。それから「神学校で獲れたから」と届けてくださった夏みかん、美味しかったです。

食堂の中山清子さん、木村かおりさん、光後芳子さんは、限られた予算の中で色々な工夫をして私たちの舌と心を楽しませてくれました。神学校での4年間、大きな病気をすることもなく元気に過ごせたのは皆さんの料理のお陰です。

そして4年間の神学の学びを無事に終えることが出来たのは、図書館の杉本晶子さん、張浄爛さん、松田美緒さんが本を整理して大切に守ってくださったおかげです。

袴田清子先生に教えて頂いた掃除技術は早速、教会で役に立っています。

吉田隆先生、袴田康裕先生、ステファン先生、吉岡契典先生、大西良嗣先生、金昭貞先生をはじめ講師の先生方には、記憶力が衰えた中年神学生を根気よくご指導いただき、説教や生活の面でも大切なアドバイスをいただきました。

そして先輩や仲間の神学生たちは、励ましや祈りによって4年間の歩みを支えてくれました。そして今も神学校で学びを続けている後輩たちにも心からのエールを送ります。そしてここに書ききれない、4年間で出会ったすべての愛する方々に、心からの感謝を伝えます。どうか皆様の上に主の恵みがいつも豊かにありますように。



4年制卒業  
野々山 芳和  
(ののやま よしかず)

日本同盟基督教団  
蛭池聖書教会 伝道師

主の御名を賛美いたします。この度、神学校での学びを終え無事に卒業することができましたことを感謝しております。私の神学校生活は、教派外からの入学ということもあり、知人が誰もいないところからのスタートでしたが、この4年間で沢山の方々の交わりが与えられ、支えていただき、改革派教会にとても親しみを感じるようになりました。今は、教職員の方々をはじめとする全国の改革派の諸教会の皆様と神様とに感謝の気持ちでいっぱいです。

神学校生活では、召命感が何度も問われました。私の場合は、初めの頃は神学校生活が続けられるのかという外的要因・不安がありました。しかし、そのことを通して、神様は必要を満たしてくださるお方であり、思い煩う必要はないのだということを実

体験として教えていただきました。また、学年が上がって学びが進んでいくにつれて、今度は、みことばを語る者としての資質という内面的な試みを感じていました。伸び悩み、停滞しているという漠然とした思いのなかで、他の神学生たちが成長する姿をみて内心焦ったりもしていました。しかし、朝禱会やチャペル、その他のことを通して、神様はいつも悔い改めへの導きと、励ましを与え続けてくださいました。今では、ともに学び、励まし合う仲間、先輩や後輩たちが与えられたことは、神学校生活を通しての神様からの何よりの恵みだったと感じています。

4月からは、母教会である日本同盟基督教団・蛭池聖書教会で伝道師としての働きを始めています。まだまだ至らないところばかりですが、神学校での学びが今の働きにとっての良い基礎になっていることを日々実感しています。同盟教団で牧師になるにはさらに3年間の現場での働きが必要ですが、これからもみなさんと同じ主を仰ぎつつ、忠実にお仕えてゆきたいと願っています。神戸改革派神学校で学ぶ機会を与えてくださった神様と、お世話になったみなさまに心から感謝いたします。



4年制卒業  
山口 耕平  
(やまぐち こうへい)

西部中会  
伊丹教会所属  
西谷伝道所 定住伝道者

5月の末に書かせて頂いています。卒業をして未だ2か月、もう2か月です。本来なら多くの皆さまにお便りを出させて頂くべきところですが、校報を通じてのご挨拶とさせて頂く非礼をお許しください。

嵐の入学式、穏やかな卒業式を経た今はどうですか、と聞かれます。今はただ学び舎で教えられた通

りに、愚直に御言葉から求め、示される主の憐みで土の器を満たされる日々を過ごしています。その日々の中で「主は御名にふさわしく、わたしを正しい道に導かれる。」(詩編23:3)お方である。そのことをも改めて実感しています。

ご承知頂いている方も多いことと存じますが、私は父の介護をしながらの牧会を想定していました。主はその思いを超えて父を御元へと召されました。その後、実家の整理をどうしようかと考えていました。すると主はこれも私の思いをはるかに超えて娘に伴侶を与え、そこに住んでくれることとなりました。移り住んだ西谷教会では『語り継ごう』と、詩編78編のみ言葉が年度目標として与えられました。これまで頂いた多くの恵みから今、教会の皆さまと共

に、主にある喜びと感謝に満たされて語り継ぐことが許されています。

住まう環境は変わりましたが、日々の生活リズムは神学校時代とあまり変わりがありません。朝、ラジオイスを開いて聖書通読を読み進め、それが終わったらラジオ体操をしています。ただ、主はこの生活に妻をも招いて下さいました。そしてこれも神学生時代に習慣づいた会堂周りの清掃活動をも楽しく共にしています。思えば私は神学校に行ってもい

いかな。介護をしながら続けられるのかな。卒業してもちゃんと務まるのかな。そのような思いもありませんが、神学校生活でした。ですがそのような思いも超えて主は教会と学び舎を通して正しき道を示し、育て続けて下さいました。

まことに生きておられる主がまた多くの方々を学び舎へと招き、それぞれの道を正しく導かれるよう祈っています。



4年制卒業

山口 弘

(やまぐち ひろむ)

中部中会  
名古屋教会 定住伝道者

卒業式の4日後、慌ただしく名古屋に引っ越ししてきました。それからあっという間に3か月が過ぎていきました。神学校時代、次から次にやってくる課題にぎりぎりの日々でした。しかし赴任後の日々はそれを上回っています。一日50時間あればいいのにと真剣に思う、綱渡りのような日々が続いています。神様、助けてくださいと何度祈ったことでしょうか。説教している夢を見ては、何度はっと目を覚ましたことでしょうか。しかし不思議と守られています。何故でしょう。

神学生の時、説教のことである先生に相談したことがあります。その際こんなアドバイスをいただきました。「山口君。心配しなくていいよ。教会に遣わされるとね、君の説教は必ず変わるよ。そこにはね、君のために祈り続けてくれる人たちがいるんだ。君はね、君のために祈り続けてくれる人たちに支えられ講壇に上がるんだよ。変わらないはずがないよ。」こんな私が絶えず祈り続けられている。それがどれほど幸いなことか、先生の教えてくださっ

たことを少しずつ味わい始めています。もっと大きな幸いを主は備えているに違いない。ワクワクさせています。

神学校時代いろいろなことがありました。その中で会社員時代のプライドなど木っ端みじんになりました。砕かれ、また砕かれ、それでも最後に残ったもの、それは、主はこんな私をそれでも用い、共にいてくださる(マタイ28:20など)ということでした。その主から目をそらすことなく、名古屋教会のみなさまに、地域のみなさまに、そして何よりもこの欠けだけの私を用い、共に歩んでくださる主に仕えていきたいと願っています。

もう58歳。若くはありません。自分の身体とよく相談しながら、慌てることなく、聖霊の助けを祈りつつ十字架の福音を忠実に語り続けたいと思っています。どうぞ、この貧しい者のために、共に歩みだした妻のためにお祈りいただければ幸いです。





特別研究課程  
(2年コース)卒業

崔 大雄  
(チェ テウン)

中部中会  
春日井教会 定住説教者

神戸改革派神学校で特別研究生として2年間学び、2022年3月に卒業した崔大雄と申します。

パウロが第2次宣教旅行のとき、マケドニアに導かれたのは、神様の不思議な導きでした。しかし、その導きに従ったとき、驚くべき神様の働きを体験することが出来ました。同じように、私において神戸改革派神学校に入学した事は、本当に神様の不思議な導きでありました。祈りの中で御言葉が与えられ、不思議な出会いによって神戸改革派神学校に導かれました。しかし、神様の導きに従ったとき、神様は本当に大切なことを教えて下さいました。

一つ目は、日本の宣教師として、日本語や日本文化を学び続けることの大切さを教わりました。二つ

目は、先輩の牧師先生の後ろ姿を通して、献身者の姿を学ぶことが出来ました。先輩の牧師先生の後に続き、イエス・キリストを見上げ、神の御国のために誠実に仕えていきたいと思いました。三つ目は、祈りの友の大切さを学びました。神学校では寮生活をします。その生活を通して、共に交わり、互いに祈るとき、神様は様々な問題を解決して下さいました。

今、私は中部中会の春日井教会で定住説教者として仕えております。日本の教会で働ける道を開いて下さった神様、また受け入れて下さった春日井教会の皆さんに感謝しております。しかし、働きの現場で気づかされたことは、まだイエス・キリストの福音を聞いたことのない方たち、またイエス・キリストの愛と恵みが必要な方たち、私たちの執り成しの祈りを求めておられる方たちが、この世にたくさんおられることでした。「収穫は多いが、働き手は少ない」。

神様から与えられた使命のために、これからもイエス・キリストだけを見上げ信頼し、従っていくことが出来るように、お祈りをお願い致します。今日も明日も、とこしえに、主の御前で日々新しい信仰で打ち勝つことが出来るように共に祈って参りましょう。ありがとうございました。

## 新入生挨拶



4年制入学

牧野 有仕  
(まきの ゆうじ)

東部中会  
江古田教会会員

私はクリスチャンホームに生まれて、22年間、東京にある日本キリスト改革派江古田教会で礼拝を守り続けることがゆるされました。そして、大学を卒業してからすぐに神戸改革派神学校入学へと導か

れました。献身の思いが与えられてから、「わたしをいかにようにでもお用い下さい」と主に祈り続け、「わたしが必ずあなたと共にいる。このことこそ、あなたを遣わすしるしである」(出エジプト3章12節)、「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」(マタイ28章20節)と主から背中を押され、召命の確信を得るに至りました。私の「有仕」という名前は、「私はあるというお方に仕える」人になって欲しいという思いで両親からつけていただきました。しかし、私が主に仕えるということの前提に、主が私を召してください、主がいつも共にいてくださるということがあるということ覚えて、与えられた道を歩んで参りたいと思います。



## 特別研究課程入学

白井 仁  
(しらい ひとし)

日本長老教会  
休職牧師



## 4年制編入

豊田 真史  
(とよだ まさし)

東関東中会  
新浦安教会会員

愛する改革派教会の聖徒の皆様、初めまして。日本長老教会の白井仁と申します。この度は牧師を休職して、特別研究生として改革派教会の献身者の兄弟姉妹たちと二年間学ばせていただく導きを、神様から与えられました。「初めまして」と書きましたが、実は神学校の教授方と何名かの牧師先生また信徒の方々には「お久しぶりです」とご挨拶しなければなりません。私は15年前にも改革派の皆様にお世話になった2007年の第55回卒業生です。中田稔先生、浅野正紀先生、藤井真先生と一緒に、市川校長、牧田校長のもとで訓練を受けました。心から感謝します。他教派の私までも、大変少ない学費で訓練を受けさせていただけるのは、改革派教会の聖徒の皆様の本心に尊い捧げ物のおかげです。派遣教会でのご奉仕や夏期伝道、聖書学校キャンプなどの機会を通して、また、学びに真剣に取り組むことを通して、少しでも皆さんに恩返しできればと、願っています。

主の御名を賛美します。昨年は願書の提出が間に合わなかったこともあり、1年間、全科聴講生として神学校で学びました。この度、正式に本科生としての道が与えられたことを心から主に感謝致します。1年の学びを経て思うことは、神学校での学びは“存在の全てが問われる”ということです。神学校では、語学、神学、釈義、歴史・・・など、それぞれ大変な時間をかけてわたしたちは学んでいます。それらは牧師にとって必要不可欠のものであるからです。一方でそれらの知的な営みだけでなく、神学校は寮において共同で生活を送っています。それゆえに、そこには様々な人間関係があり、その中で自分の罪深さや弱さを示されます。しかしそのような場であるからこそ、「わたしに従いなさい」との主の御声に如何にして応えることができるのか、その存在全てが問われます。あと3年の学びが続きますが、イエスキリストの愛に生かされながら、御言葉の役者として一歩ずつ道が整えられるよう、主に祈っています。

New Books

## 『改革派教義学4 キリスト論』

- 著者：牧田吉和（本学元校長・非常勤講師）
- 販売価格：4,800円＋税（札幌：一麦出版社、2022年）



牧田吉和先生のこの著作によって、別巻を合わせて全8巻の『改革派教義学』が、10年の歳月を経て遂に完結しました。本書において、時に難解な「キリスト論」について、改革派神学の歴史的遺産を網羅的に集成し、現代の神学にも目配せしつつ、かつこれほどの包括性で書き上げられたものを他に知りません。この「キリスト論」には、シリーズの総目次と聖句索引も別冊で同包されています。この別冊も、聖書と共に読まれるべき、改革派神学の聖書的姿勢を提示するものです。皆様、ぜひ本書を直接手に取って、特に「あとがき」に著されている著者の牧師また神学者としての矜持に触れてください。（吉岡契典）

## 「全校祈祷日の報告」



2022年2月4日、神学校にて全校祈祷日が開催されました。講師として、名古屋岩の上教会牧師の相馬伸郎先生をお招きし、『伝道に心を燃やし続ける』というテーマでご講演を頂きました。

「神学生は卒業までに、最低一人の求道者を明確な回心に導いて下さい。少なくともそのために祈りを重ねて下さい。それが卒業証書となると考えて下さい。」

午前の講演は、聞いていた神学生が皆、思わずドキリとするような言葉から始まりました。この講演で相馬先生が明確に打ち出されたのは、“伝道者”としての牧師像です。「牧師職とは、『世にある仕事の一つ』ではなく、『自己実現』のための場でもない。牧師とは『目の前にいる滅びゆく一人の魂の前に、御言葉をもって向き合う者』である。それは自分に死に、キリストと共に生きることによってしか成し得ない」。このように語って下さった先生ご自身も、過去の牧会経験の中で心砕かれ、現在もコロナ禍での宣教に苦慮しながら、自らを問い直しつつ歩んでこられたというお話を伺い、改めて「伝道者」としてのアイデンティティを心に据えることの大切さを教えられました。

午後はルカ24章の解き明かしを中心に、あるべき牧師像について更に力強く語って頂きました。エマ

オに向かう旅の途上で、目の前に現れたイエス様に気付くことが出来ない2人の弟子。「そんな馬鹿な」と思わず呆れてしまう私達読者ですが、しかしこの2人こそ、主イエス様のことを「分かったつもり」になっている、心の鈍い私達の姿であると示され、またもやドキリとさせられました。その後2人の弟子は、主イエス様の御言葉の解き明かしによって心燃やされ、踵を返して共同体のもとへと帰っていきます。こうして集められるのが教会であり、この出来事が毎主日の礼拝において実現しているのだと相馬先生は語って下さいました。ここから、説教者自身が御言葉に感動し続けること、そして救いの喜びが湧きたつような説教の言葉を熱心に祈り求めていくことの必要性を教えて頂きました。

主イエス様との出会いは、私達にとって驚きであり、感動であり、決して聞き慣れることのない喜びです。すぐに「知ったつもり」になり、心が冷めてしまう私達ですが、主の御言葉という“薪”が心にくべられる時、私達の心は絶えず燃やされ続けるのです。相馬先生の講演を通して、御言葉への熱心、救いの喜び、そして伝道への情熱を携えつつ歩むという、献身者としての思いを新たにさせられ、大変恵み豊かな一日となりました。

4年生 川端 達哉



## 「神学校リトリート報告」



今年のリトリートは、私にとっては神学校での最後のリトリートという意味で特別でしたが、神学生全体にとっても、大変に特別な意味をもつものでした。

実は、コロナの影響で、2年前のリトリートは完全中止。そして昨年は校内での実施を余儀なくされました。今年に入り、コロナが少しずつ落ち着いていく中で、主の恵みにより、今回は神学校を離れ、「コープこうべ協同学苑」でリトリートを開くことが許されたのです。

今年は、改革派但馬みくに伝道所の吉田実先生をお招きし、「神の国を映し出す共同体形成を目指して」というテーマで行われました。個人的に特に印象に残った講演は、一日目の講演(題:「献身の証しと中国のキリスト者との出会い」)でした。吉田先生の証しを通して私は「神は、私たち一人ひとりを特別な人たちと結び合わせてくださり、その『出会い』を通して、導いてくださるお方である」ことを改めて教えられました。

証しの中で、吉田先生は、御自身の二つの出会いについて語ってくださいました。一つ目は「いのちの水計画(中国の家の教会に聖書を届ける働き)」に関わっていた奥様との出会い、です。お二人は新婚旅行も聖書を持って中国に行かれたのだそうです。二つ目は、神学校在学中に誕生された、重度の知的

障がいをお持ちの息子さんとの「出会い」です。私は、「もし、これらの、二つの特別な『出会い』がなかったのなら、きっと、吉田先生が中国孤児院の子どもたちと出会うことも、また、その孤児院支援に関わるように導かれることもなかったのだろう... 私たちの歩みは、人との無数の『出会い』の連続の中で導かれていくものなのだなあ... 神様の導きは本当に不思議...」と思いました。また、講演後に持たれた分団の時間では「最も弱い人が礼拝できる教会を目指す」ことの重要性について分かち合うことができました。

夕方にはチームに分かれて、「ミニ証しタイム」がありました。参加者たちがくじ引きをし、くじ(紙)に書かれている質問に答える、という時間です。私のチームにはちょうど、現在、板宿教会で働いておられる吉岡先生と、板宿教会出身の吉田実先生がいらっしゃったのですが、そのおかげで、先生方の「ミニ証し」だけではなく、板宿教会にまつわる色々なエピソードも聞くことができ、本当に楽しいひと時を過ごすことができました。

未だにコロナ禍にありますが、その中でも、神がお造りになった美しい自然の中で、リトリートを開くようにお導きくださった主に心から感謝いたします。

4年生 蔭 淳吉(ジャン・スングル)

## 春の信徒神学講座

### 「ギリシア語の はじめの一步」

2022年 5月7日(土)、14日(土)

講師: 金 昭貞 (本学非常勤講師)

2022年5月7日と14日の土曜日に春の信徒神学講座が神港教会でありました。パンデミックより、なかなか開催することができませんでしたが、今年は開催することができました。主に心から感謝いたします。

「ギリシア語のはじめの一步」というタイトルどおり、一日約2時間半という短い時間ではありましたが、アルファベットから一部の文法活用、そしてギリシア語の歴史について皆で学びました。実は、昭貞先生は神学生だった頃、ギリシア語がとても苦手だったと仰っていました。ギリシア語の難しさを経験していたからこそ、どのように楽しく学ぶことが出来るのかを研鑽なさったのだと思います。昭貞先生の講義はインパクトが強く、頭からなかなか離れません。昭貞先生は少しでも楽しく覚えやすいように、歌や画像等を使って教えて下さるからです。

今回の講義のスピードは神学校の授業より、はるかに速く大変だったと思います。しかし、皆様お一人お一人の顔には笑顔が絶えず溢れていました。2週目の講義のはじめに、アルファベットを復習する時間がありました。先生が歌を歌い始めたのですが、何と先生の声をはるかに上回る大きな声で皆さんが歌われました。途中で先生も驚き、先生は終わりまで歌われなかったのですが、皆様はなお詰まることなく、歌い切りました。その途端、会場は拍手であふれました。皆でお互いのために拍手をしました。私は、この様子を見て「神の言葉を原語から味わいたい!」という皆様の情熱に圧倒されました。

これからも、共にそれぞれの場で神の言葉を深く味わっていきたい!と思わされる2日間の講義でした。この学びの時を備え、導いて下さった主に心から感謝いたします!

3年生 金主恵(キム・チュヘ)



Q  
&  
A

“ 遺産を神学校に「寄付」したいと考えているのですが、  
どうしたら良いでしょうか ”

神様からいただいた財産を最後までふさわしく用いることはすばらしいことです。それだけに、そのお志が無駄にならないように注意が必要です。

- 遺産は法定相続人(いない場合は特別縁故者か国庫)に帰属するのが原則ですから、神学校に寄附するためには「遺言書」を作成するのが一般的です。

「私の次の財産(口座等で特定)を宗教法人日本キリスト改革派教会(神戸改革派神学校)に遺贈する」「遺言執行者を〇〇と指定する」等と記載し、作成日も必ず書いて下さい。

- 遺言書には、①自筆証書遺言と、②公正証書遺言があります

### ①自筆証書遺言

自筆証書遺言は、自筆で作成し署名・押印するもので、手軽ですが形式不備による無効や紛失・改ざんのおそれもあるため、法務局の自筆証書遺言保管制度の利用をお勧めします。

### ②公正証書遺言

公正証書遺言は、手数料や証人2人が必要ですが、①自筆証書遺言より確実ですし、公証役場に行けない場合は出張もしてくれます。

★ 寄付額が、一定の相続人に保証される「遺留分」を超えると、後日神学校が遺留分侵害額請求を受けることがありますのでご注意ください。

その他

- 遺言書作成以外にも、指定した財産を亡くなった時点で神学校に贈与するという契約(死因贈与契約)を神学校と結ぶ方法もあります。
- 詳しくは、公証役場や弁護士、司法書士、税理士等の専門家にお尋ねください。また、不動産や株式、蔵書等の寄付をお考えの方は事前に神学校にご相談ください。

トラブルを避けるためには、可能であれば生前に寄付していただくのが一番望ましいのですが、遺産を寄附されるのであれば(遺留分を超えない場合も含めて)予め相続人の皆様のご理解を得ていただくことが大切だと思います。

記：常石和美(大阪教会会員、弁護士)



遺言書

# 神戸改革派神学校

2023 年度新入生募集案内

激しい時代の変化の中で、変わることのない  
神の国の福音の希望を伝えるために。  
あなたの人生を主に献げてください！



## 4年制

教職養成課程です。ゆとりある充実した  
授業とともに実践面を強化します。



## 2年制 (4年制への編入も可能)

教会に献身する信徒のためのコース！  
信徒説教者・信徒リーダーなど教会献身者の  
神学教育のために。



## 特別研究課程・聴講制度あり



願書締め切り

**2023**

**1/10** (火)

入学試験

**2023**

**2/14** (火)

まずはお問い合わせください！

